

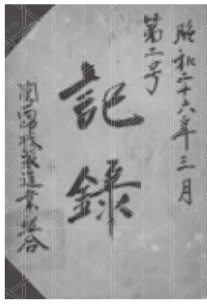
# 印材—松原の地場産業の歩み

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)

松原歴史ウォーク



▲吉田留吉の墓 (昭和43年建立、天美北8丁目の城連寺・池内墓地)



▲[昭和26年3月第2号記録 関西印材製造業組合]の表紙



▲昭和20年3月の芝野印材製作所の「工場登録證」



▲大正末～昭和初期の手束印材店(手束治良三商店) 写真裏に「天美車庫前西」とある。天美車庫前は現河内天美駅のこと。大正12年～昭和8年の間の駅名であった。



▲手束音三(前列左)、芝野亀吉(前列右)、小山良太郎(後列左から2人目) 昭和27年の「第3回全国印判用品卸商工組合連合大会」(昭和27年・有馬温泉)にて。

写真提供や内容については、手束訓洋・芝野幹雄・手束嘉孝・小山明の各氏にご教示いただいた。

吉田留吉に始まり、手束音三、芝野亀吉、小山良太郎・亀太郎へ

先般、産経新聞の「関西知探解」紙上で、松原の地場産業として有名な印材が特集されました(二〇二二年七月九日)。印章(印鑑)の素材として、水牛の角などを加工して造られる印材の日本有数の産地が松原だからです。明治時代以降、天美地区で広まり、今も十軒ほどの製作所が見られます。新聞を読まれた方から、松原の印材史を知りたいと、問い合わせがありました。

新聞では、天美東(池内)の河内屋印材製造所や同地の芝野印材製作所、北新町(向井)の小山良印材製作所(株)が取り上げられました。私も取材をされた大島直之記者に同行し、歴史について話をさせていただきました。その後、関係者に聞き取りをしたり、資料をご提供いただいたりして、その歩みが少しずつ分かってきました。

これまでも、明治後半に松原の人が当時の西成郡勝間村(現大阪市西成区玉出)の印材業者で修業し、天美へ持ち帰ったと伝わっていました。今回、改めて調べた結果、修業に出た人は、天美村池内(現天美東)の吉田留吉であることが判明しました。

吉田家は、現在の河内天美駅前西口のトレビアン天美商店街北角で、たどん屋を営んでいました。留吉の生没年は、わかりません。ただ、明治十年代後半の生まれで、明治三十七年(一九〇四)の日露戦争に従軍し、のち印材製造を自宅で始めたようです。この頃は、水牛の角だけでなく、高級な象牙も使われていま

た。留吉は、その技術を、同じ池内の手束音三や芝野亀吉らに伝授したのです。音三は通称を治良三とも名のり、明治二十八年(一八九五)生まれ。亀吉は明治三十三年(一九〇〇)生まれで、いずれも留吉宅とは隣近所でした。

一方、戦前、布忍村向井(現北新町)の小山亀太郎は留吉から技術を習得し、のち独立しました。また、相前後して、亀太郎のおじの小山良太郎(明治二十九年(一九〇六)生まれ)も印材業に進み、向井でも印材製造が始まりました。

終戦直前、留吉は池内を離れ、娘夫婦を頼って現大阪市生野区の鶴橋駅近くの勝山通りに移ります。それでも留吉は、戦後、たびたび天美を訪れ、音三・亀吉・良太郎・亀太郎らと共に、その頃、活動していた関西・大阪の印材製造業組合の運営に参加したのです。

先の産経新聞によると、現在、印鑑製造が盛んな山梨県では、「水牛の印材は、そのほとんどを大阪から仕入れているのではないかと書かれています。松原の業者もその一端を担っていますが、留吉は戦後、印材製造をやめて製品販売に従事し、山梨県へ売りに行っていたということです。松原・大阪産の山梨県販売ルートの先駆者だったのです。

松原の印材業は、昭和の初めごろから今のような製作所の形態をとるようになりました。音三が営んでいた手束印材店(手束治良三商店)で、大正末、昭和初期に工場内で撮影された写真が見つかりました。中央の職人は水牛の角と加工す

る金ノコを持っています。

芝野印材製作所には、亀吉が昭和二十年(一九四五)三月に、当時の大阪府三宅警察署に出した「工場登録證」が残っていました。今も営業を続ける池内の自宅兼工場で、「骨角牙類製品」などを造っていたのです。

また、音三の孫で、池内で印材業を営む(株)手束で、昭和二十六年(一九五二)三月から書き始めた関西印材製造業組合の「第二号記録」も所蔵されていました。

同ノートは手書きで、毎月、役員会が開かれました。毎年、組合長は一年任期で選ばれますが、役員会は組合長宅で主に開催されていました。製品の原材料調達、販売ルート、新製品の開発、総会や懇親会の内容など多岐にわたりました。音三・亀吉・良太郎・亀太郎など松原の印材界を引っばった人々も組合長に選ばれ、それぞれの自宅で行われています。また、留吉も相談役となり、頻繁に出席し、時には「勝山通り 吉田氏宅」で役員会が開かれていました。

留吉は、勝山通りの自宅で昭和四十年代後半、九十歳ほどで亡くなったようですが、生前、故郷の天美に妻子の名も刻み、一家の墓を建てていました。近鉄線沿いの池内・城連寺墓地の北東角に、「吉田家先祖代々之墓」(昭和四十三年八月吉日 吉田留吉建立)とあります。

松原で印材製造が興って一〇〇有余年。先人たちの家内工業から始まり、今では現代のニーズに合わせた製造品も全国各地に送り出されています。